

授業紹介

■住まいの計画に関する主な授業

：「住生活論」、「居住計画論」、「居住福祉論」

「建築は住宅に始まり、住宅に終わる」と、よく言われます。建築の学びは、まず、規模が小さく身近な存在の住宅から始めますが、次第に規模の大きな建物へと学びを進めるうちに、一見簡単のように見える住宅の奥深さや難しさに気付くようになります。それぐらい、きめ細やかな対応が求められる住宅には、建築の究極の答えが詰まっており、建築の原点である住宅を学ぶことは、とても重要です。

生活科学科に属する本コースでは、生活者の視点に立って住まいのあり方を考えることを大切にしており、一般建築物を主とする建築系大学とは異なる特徴となっています。

住まいの計画に関する授業としては、以下のような科目があります。



◆「住生活論」

住まいが風土や家族、社会的・文化的条件などの関係から、どのように形成され、時代とともに変化してきたか、そして、現代の抱える課題を理解し、今後の住まいのあり方を考えます。

◆「居住計画論」

部屋の広さや間取り、家具配置、空間的な工夫など、人々が便利で快適に生活できる住まいをどのように計画すればよいか、その方法について考えます。

◆「居住福祉論」

高齢社会をふまえ、住み慣れた環境で安心して人々が生活を送れるよう、バリアフリーやユニバーサルデザインなど、福祉の観点から住まいづくりについて考えます。